

2023. 5. 15

2023年4月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「緩やかに持ち直している」と、前回と同様の判断です。10か月連続の判断据え置きとしました。
- 需要項目ごとの判断も変更はありません。
- 雇用は、「緩やかに改善している」と上方修正しました。対面型サービス業を中心に人手不足感が強まっており、労働需給が全体として緩やかに改善していることを踏まえたものです。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、3月、増勢が鈍化しつつも、4か月連続で前年を上回りました。衣料品は、外出や旅行需要の回復を受け、春物衣料や旅行関連の身の回り品等を中心に持ち直しが続いています。食料品は、節約志向がみられる中でも値上げの効果等から、堅調となっています。大規模店舗では、遠方客を含めて客足の回復が続き、売上が増加しました。引き続き、インバウンドの来店客がみられ、免税品の売上が好調となっています。一方、家電販売は、新生活需要が一部にみられたものの、需要一巡からエアコンの販売が大幅に減少し、全体では弱めの動きとなっています。
- 新車登録台数は、3月、軽自動車、除く軽とも前年を上回ったことから、合計でも前年を上回りました。合計は、3か月連続の前年比プラスです。メーカーからの完成車供給は、国内向け出荷の増加等により、引き続き、改善がみられました。

販売地合いは、増勢は鈍化しつつも、堅調となっています。自動車ディーラーでは、新型車投入の効果もあって相応に受注を獲得できています。こうした中で、受注残は高水準で推移しています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、3月、全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。3月まで18か月連続の前年比プラスです。コロナ前の2019年水準を下回っていますが、旅客数は回復が続いています。この間、旭川空港の国際線は、3月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。2月、36か月振りに国際チャーター便の運行がありましたが、3月は再びゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、3月、前年を上回りました。コロナ前の2019年を下回っていますが、旅行需要が回復する中、インバウンドの回復や「全国旅行支援」による下支えもあって、緩やかに持ち直しています。旭川市内のホテル客室稼働率も、3月、前年を上回りました。こちらもコロナ前の2019年の水準を下回っていますが、緩やかに持ち直しています。
- 各地観光施設の入込みは、3月は、旭山動物園、層雲峡、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーとも前年を上回ったことから、合計でも前年を上回りました。コロナ前の2019年の水準を下回っていますが、観光需要の回復を受けて緩やかに持ち直しています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、3月、オホーツクが前年並みとなったものの、上川、宗谷が前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。2022年4月以降の累計では、オホーツクが前年を上回ったものの、上川、宗谷が前年を下回ったことから、全体でも前年を幾分下回りました。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、2月、持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を上回りました。3月、持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を大きく上回りました。月によって振れはありますが、基調としては、持家が減少している一方、貸家は下げ止まりつつあり、分譲は横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、緩やかに改善しています。有効求人倍率は、2月、網走が前年を下回ったものの、旭川、稚内、北見で前年を上回りました。3月、北見、網走が前年を下回ったものの、旭川、稚内が前年を上回りました。2月、3月とも旭川、稚内、北見、網走の全てで1倍を上回り、全体でも23か月連続の1倍超えとなりました。新規求人数は、2月、稚内が前年を上回ったものの、旭川、北見、網走が前年を下回ったことから、4つの職業安定所の合計では前年を幾分下回りました。3月、網走が前年を上回ったものの、旭川が前年並み、稚内、北見が前年を下回ったことから、4つの職業安定所の合計では前年を幾分下回りました。

■今後のポイント

- 当面は、値上げが続くもとでも、消費が堅調となっているほか、観光も全国旅行支援による下支えやインバウンド需要の回復から、全体として緩やかに持ち直していくとみられます。ただし、物価上昇が続くもとで消費者の節約志向が強まる可能性や、対面型サービス業における人手不足の影響など、引き続き、不確実性が高い点には留意が必要です。

今後、道北地域の経済をみていく上でのポイントとしては、①人流回復が続き、需要拡大が期待されるもとでの観光、消費の動向、②物価上

昇が消費や企業収益等に与える影響、③対面型サービス業における人手不足が消費等に及ぼす影響、について注意を払いたいと思います。

以 上